

# ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における学習支援の取り組み

A Brief Report of Learning Supports at Learning Commons “Colatelier”

東北学院大学 ラーニング・コモンズ 嶋田みのり

## 1. はじめに

近年、ラーニング・コモンズが急速に普及し、主に学生の授業外学習や正課外活動の場として活用されている。ラーニング・コモンズは、「主として学生を対象とし、学習支援のための設備・施設、人的サービス、資料を総合的にワンストップで提供する学習支援空間」(呑海・溝上 2012) と定義されているように、グループ学習がしやすい什器やICT機器等の設備や資料だけでなく、人的サービスも重要な要素の一つである。

東北学院大学ラーニング・コモンズ「コラトリエ」では、2016年9月の開設時より、特任教員2名による学習支援を実施している。ラーニング・コモンズで実施されている学習支援の取組はリメディアル教育や初年次教育と連携している事例(鈴木 2016等)はあるが、本学のラーニング・コモンズは、キャンパスの立地上、主な利用者が文系学部3、4年生であり、彼らに対してどのような支援が必要か、またどのような支援が効果的かについての知見はほとんどなく、試行錯誤しながら取り組んでいるのが現状である。そこで、本稿では、2018年度の学習支援の実施状況について報告し、本ラーニング・コモンズの学習支援の取組に対する現状や今後の課題について考察する。

## 2. ラーニング・コモンズ「コラトリエ」と学習支援の概要

本学のラーニング・コモンズは、2016年9月に開設され、主に文系(文・経済・経営・法)学部の3・4年生の授業外学習の場として活用されている。学習支援は、学生の汎用的能力の育成を目的に、筆者を含む特任助教2名が企画・実施している。主に、コラトリエの施設や活用方法について学ぶ「ガイダンス」、レポートの書き方やプレゼンの仕方等のアカデミックスキルに関する「セミナー」、ライティング支援を中心とした「個別相談」を実施している。これらは、泉キャンパスに在籍している文系学部の1、2年生及び教養学部の全学生、多賀城キャンパスに在籍している工学部の学生も利用できるが、キャンパスの立地上難しいのが現状である。そのため、2018年度からは、泉キャンパスでも試験的に期間を設けて学習支援を実施している。次章では、各取り組みの概要と実施状況についてみていく。

### 3. 学習支援の概要と実施状況

#### 3.1. ガイダンス

ガイダンスは、2016年度後期よりラーニング・コモンズの施設や活用方法の周知を目的に実施している。2018年度は、「コラトリエツアー（90分）」と短縮版の「ミニガイダンス（30分）」の2種類を企画・実施した。「コラトリエツアー（90分）」は、ICT機器の使い方を含めたラーニング・コモンズの活用方法を体験的に学ぶグループワーク中心のプログラムである。具体的には、マップを活用した自己紹介のアイスブレイクの後、小グループに分かれて実際にコラトリエの3つのフロアを見学し、グループごとに、コラトリエの魅力や活用方法について2分間でプレゼンテーションをするという流れで行っている（図1）。見学の際には、各フロアの説明や貸出機器類、学習支援の内容や利用ルール等をクイズ形式にしたワークシートを配布し、グループで必要な情報を協力して見つけ、コラトリエの施設の特徴や活用の仕方について考えてもらい、わからない場合はインフォメーションカウンターのスタッフに質問するよう促している。また、発表の際は、コラトリエに設置している電子黒板、プロジェクタ、ホワイトボードのいずれかを使用することを条件にしている。コラトリエ開設前に、図書館の協同学習スペース「アクティブコート」で実施した調査（嶋田 2016）によると、支援ニーズとして「ICT機器の使い方」が多く挙げられたため、コラトリエ内の機器の使い方を体験的に学べるように工夫している。「ミニガイダンス（30分）」は、コラトリエの施設の紹介や学びの支援の概要や用の仕方等を30分で説明するという短縮版である。



図1 コラトリエツアーの様子

2018年度は、15ゼミ（233人）から申し込みがあり、個人での申し込み2件と合わせて計235人が参加した。申し込みは、一人や友人同士、ゼミ単位でも受けつけているが、教員によるゼミ単位での申し込みがほとんどで、受講者はすべて3年生であった。

「コラトリエツアー」の終了後、参加者145名に対してアンケートを実施した（図2）。「ツアーの満足度」及び「コラトリエを今後活用したいと思うか」の2問に対して5件法で尋ね、それぞれ回答した理由を自由記述で尋ねたところ、ほとんどの学生から肯定的な回答を得た。

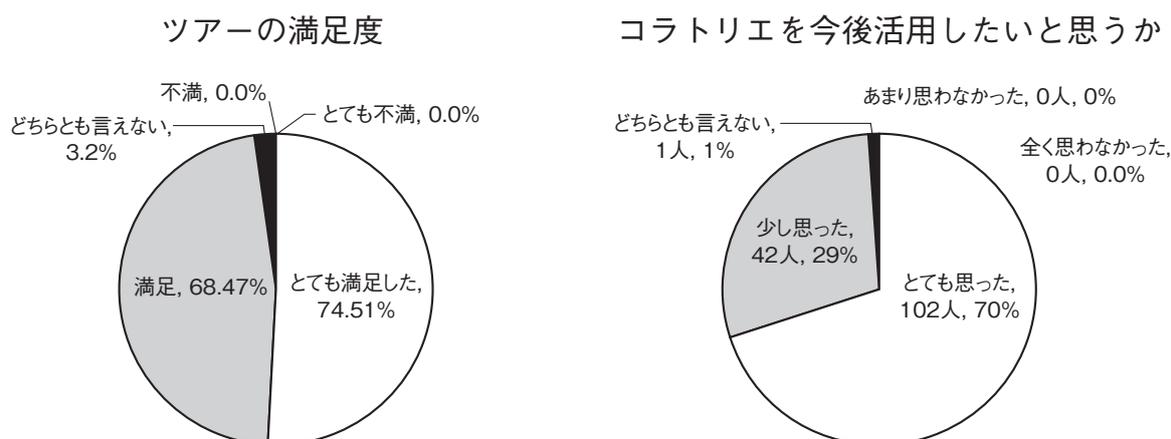


図2 「コラトリエツアー」のアンケート結果

「とても満足した」あるいは「満足」回答した学生の自由記述をみると、「施設の利用方法を実際にまわってプレゼンすることで、説明を聞くだけよりも身についた」等、実際にコラトリエで活動をしたことに対して評価するものや、「実際にコラトリエの機器を使うことができたので、今後使う不安が無くなった」等、コラトリエの設置機器を実際に利用できた点を評価する記述も多く見られた。

また、少数ではあるが、「これまで使い方がよくわからず、入室をためらっていたが、今回のセミナーで知ることができた」、「興味があったが少し入りづらい雰囲気もあったので、機会があれば利用しようと思う」、「今までずっと気になっていたコラトリエの使い方がよく分かった」といった記述もみられた。これらの記述からは、外からコラトリエを見る等して施設の存在は知ってはいるものの、利用に消極的な学生がいることがわかる。いずれの学生も「今後コラトリエを活用しようと思うか」との問いに対し、「とても思った」と回答しており、そのような学生に対しては、本ガイダンスが利用を促す有効な手段の一つになるのではないかとと思われる。

### 3.2. セミナー

開設初年度より、アカデミックスキルに関するセミナーを実施している。セミナーの内容は、毎年少しずつ修正しながら数を増やし、2018年度は、13種類のセミナーを企画した（図3）。2017年までは月ごとに1～2種類のセミナーを数回ずつ実施していたが、開催しても申し込みが少なく不開講になることも多かった。そこで、2018年度からは、定期的なセミナーの開催をやめ、4月にセミナーリスト（図3）を提示し、申し込みがあれば実施するという方法に変更した。各セミナーは、1回90分である。申し込みは、1人から受け付けており、友人同士等の

セミナー一覧		
1	プレゼンテーション	発表準備(発表の構成と話し方)について学ぶ
2	ノートテイキング	ノートをとる意味を検討し、コーネル式ノートやマインドマップについて学ぶ
3	文献の読み方	LTD話し合い学習法の手法を用いて文献を読み深める方法を学ぶ
4	グループワーク	グループワークに必要なコミュニケーション(話し方・聞き方・進め方)を学ぶ
5	レポートの書き方(構成)	文章構成(レポートの構成・パラグラフライティング)を学ぶ
6	レポートの書き方(表現)	文章表現(学術的文章にふさわしい表現・一文一義など)を学ぶ
7	レポートの書き方(引用)	情報の信憑性や引用の仕方を学ぶ
8	レポート自己分析	自分が書いた文章(構成・表現・引用・体裁など)をチェックする
9	まわしよみ新聞	新聞記事を読んで他者に紹介するワークを通じて要約力やプレゼン力を養う
10	ロジカルシンキング	ピラミッドストラクチャーを使って根拠に基づいた主張の組み立て方を学ぶ
11	伝わる文章の書き方	伝わる文章を書く上で必要な文章構成(パラグラフライティング)や表現(一文一義など)について学ぶ
12	Microsoft Word	レポート作成に必要な基本的な操作を確認する
13	Microsoft PowerPoint	PPTスライドを使った発表に必要な基本的な操作を確認する

図3 コラトリエセミナーリスト

表1 コラトリエセミナーの実施状況(ゼミ単位での申し込み)

セミナー内容	クラス数	人数
プレゼンテーション	4	43
伝わる文章の書き方	2	30
ロジカルシンキング	2	30
グループワーク&マインドマップ	1	15
まわしよみ新聞	1	14
合計	10	132

表2 コラトリエセミナーの実施状況(個別申し込み)

セミナー内容	人数
伝わる文章の書き方(就活編)	6
Powerpointの使い方	3
レポートの書き方(文章表現)	3
レポートの書き方(文章構成)	3
合計	15

複数人での申し込みやゼミ単位での申し込みも可能であり、1週間前までに事前に申し込むことになっている。

実際に開催したセミナーの種類と参加者数は、表1と表2の通りである。表1は、教員からの申し込みによりゼミ単位で実施したもの、表2は、学生の個別申し込みにより実施したものである。

ゼミ単位で実施したものとしては、「プレゼンテーション」が多く、3年次のゼミでグループ発表を行う前に教員が受講を希望するケースが多かった。「伝わる文章の書き方」は、2件

とも受講者は4年生で、卒業論文の執筆に備えての受講であった。「グループワーク&マインドマップ」については、もともとのセミナーリストにはなかったが、申し込み時の打ち合わせで担当教員と打ち合わせをした結果、マインドマップの書き方とグループワークをする際に気を付ける点を学びたいという要望があったため、マインドマップの書き方を学んだ後に、「グループワーク」をテーマにグループでマインドマップを完成させるワークを行った。

学生からの申し込みが多かったのは、「伝わる文章の書き方（就活編）」である。これは4月に提示したリストには入っていなかったが、就職キャリア支援課の職員から文章の書き方に関するセミナーを開催できないかとの相談を受け実施したものである。セミナー内容は、事前に就職キャリア支援課の職員に確認してもらった上で、もともと実施していた「伝わる文章の書き方」の内容をアレンジした。2018年度は、既に4年生の就職活動が始まっていた段階での実施だったが、学生の反応は比較的良かったため、次年度以降は就職活動の時期に合わせて実施するとより参加人数は多くなることが見込まれる。

以上見てきたように、2018年度は、事前に13種類のセミナーを企画したが、実際には9種類のセミナーを実施し、のべ147名の学生が参加した。セミナー後に実施したアンケートの結果は、図4の通りである。時間の都合上、アンケートを実施できなかったことも多かったため、回答数は55件と少ないが、参加者のほとんどが「とても満足している」あるいは「満足している」と回答しており、概ね参加者の満足度は高かった。

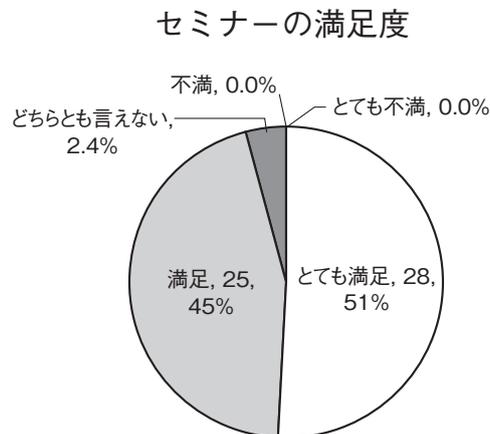


図4 参加者のセミナーに対する満足度

セミナーの内容や時期等についてはこれまで試行錯誤を重ねていたが、2018年度から実施方法を変更したことによって、より教員や学生のニーズに合わせた支援が可能になったように思われる。事前にセミナーリストを提示したことにより、コラトリエで支援できる内容を教職員に広く周知でき、またリストを基に事前に打ち合わせをすることで、個々の状況に合わせたセ

ミナーを開催することができた。また、実施状況からは、グループ発表や卒業論文の執筆、就活書類の作成といった学部3・4年生に対する支援ニーズの特徴が見えてきたように思われる。本年度の実施状況を踏まえ、来年度のセミナー内容を再検討し、よりニーズに合ったセミナーを実施していきたいと考えている。

### 3.3. 個別相談

個別相談は、月曜日～金曜日の平日3～5時間目に、コラトリエの2階にある個別相談ブースにて随時実施している。個別相談では、ライティングに関する支援を中心としているが、学習に関すること全般について幅広く相談を受け付けている。

ライティング支援では、他大学のライティングセンターと同様に、自立的な書き手を目指し、書く過程（プロセス）や対話を重視した支援を実施している。対象とする文章は、レポート、卒業論文、プレゼン資料、就活書類である。当初は、就活書類に関する支援は実施していなかったが、前述の通り、就職支援課と連携して「伝わる文章の書き方（就活編）」のセミナーを実施したことがきっかけで就活書類も対象とすることにした。

その他の支援については、具体的には、履修に関する相談やタイムマネジメント、学習方法全般に関するものである。ライティング支援と同様に、自立的な学習者を目指している。学生の状況を聞いた上で、何が問題になっているのか課題や問題点を整理し、やるべきことや目標を明確にしてもらったり、目標や計画の立て方についてアドバイスをしている。また、必要に応じて教務課や学事課、学生総合保健支援センター等の他部署に繋げている。

2018年度は、4月～12月の時点でのべ63件の個別相談を実施した。図5は、学年別の実施状況である。3・4年生の相談が7割を占めているが、他キャンパスに在籍している1・2年生の利用もあった。

学年別の実施状況

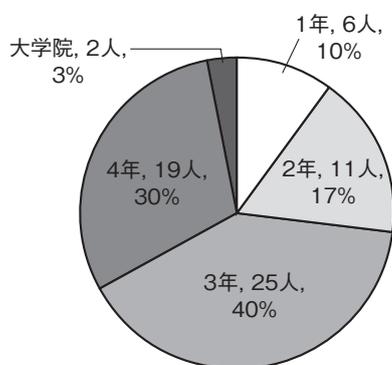


図5 個別相談の実施状況

相談内容

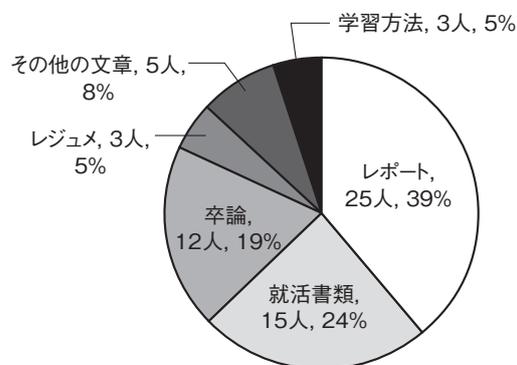


図6 個別相談の内容

相談内容で最も多かったものは、レポートに関するもので、次いで、就活書類、卒業論文に関するものが多く、ライティングに関する相談がほとんどであった。その他の文章に関する相談とは、外部のプレゼンコンテストや論文コンテストについての相談である。学習方法に関する相談としては、履修方法、学習計画に関するものであった。

個別相談終了後に、アンケートを任意で実施し32名から回答を得た。個別相談の満足度を5件法で尋ねたところ、32名中23名が「とても満足している」、8名が「満足している」と回答し、1名が無回答であった。満足度の理由を自由記述で尋ねたところ、「自分以外の誰かに一緒に読んでもらったことで自分の課題の良いところと悪いところが明確に理解できた」、「論点がズレている原因について知ることができ、今後のレポート作成に生かせる」等、具体的な課題が明らかになったことについて挙げているものや「親身になり丁寧にレポートの書き方を教えてくれた」「しっかり話を聞いてもらえた」等の意見もあった。

表3は、利用のきっかけについて尋ねた結果である。7割以上の学生が「自分から相談しようと思った」と回答しており、学生の自主的な利用が多いことが分かる。他に「教職員に紹介されて利用した」と回答した学生は8名、「友人に紹介されて利用した」と回答した学生も2名いた。

表3 個別相談の利用のきっかけ

内容	自分から	教職員	友人	先輩	その他
人数	23	8	2	0	4
割合	71.9%	25.0%	6.3%	0.0%	12.5%

※重複回答可

### 3.4. 泉キャンパスの出張セミナー

1、2年生が在籍する泉キャンパスにて、2018年6月、7月に、「レポートの書き方」出張講座を計5回開催した。1年生が14名、2年生が3名、計17名の学生が参加した。各セミナー内容と参加人数は、表4の通りである。

表4 泉キャンパスのセミナーの参加状況

セミナー内容	人数
参考文献の探し方&選び方	2
伝えたいことを整理して書く方法（文章構成）	6
レポートにふさわしい表現とは（文章表現）	4
コピペにならないレポートの書き方（引用の仕方）	5
提出する前にこれだけはチェックしよう！	0
合計	17

セミナーは、MYTGを使って学生に周知する他、泉キャンパス内でポスターを設置したが、多くの学生は学内の掲示板によってセミナーの開催を知り、自主的に申し込んでいた。

#### 4. まとめと今後に向けて

以上、2018年度の学習支援の取組状況について簡単にまとめた。開設時以降、文系学部の3、4年生に対する学習支援の内容や方法については模索しながら実施している状況である。ガイダンスについては、当初より学生による申し込みが少なく、ゼミ単位で実施しているが、施設の周知や利用促進といった実施目的を踏まえると今後もゼミと連携した実施が効果的であると考えている。一方で、ゼミに所属していない学生の中にも、コラトリエの施設の存在を知らない学生や、施設の存在は知っていても施設の目的や利用方法が分からず入室をためらう学生は多くいると思われる。より多くの学生に自主的に参加してもらえるように、広報手段も含め他のアプローチも併せて考えていく必要がある。

セミナーについては、実践を重ねながらニーズを探っている段階であるが、本年度は、開催方法を変更したことによって、より学生や教員のニーズに合わせて実施できた。また他部署と連携してセミナーを実施できたことも本年度の成果の一つである。今後もグループ発表や卒業論文、就職活動等、文系学部3、4年生の授業外での学習活動の実態に合わせた支援を実施していく必要がある。また、これらの学習活動の質を高めるためにどのような支援が効果的か検証していきたいと考えている。

個別相談については、相談者の7割が学生の自主的な利用であり、相談件数も増加傾向であることから今後も利用の増加が期待できる。今後、相談内容の蓄積・分析を行い、学部学科や学年ごとの傾向性を明らかにすることでセミナー内容を検討する際に活かしていきたいと考えている。また、個別相談によって学生がどのような学びを得ているのか質的に検証していく必要がある。

#### 参考文献

- 嶋田みのり・遠海友紀・帖佐和加子・村上正行・稲垣忠 (2016)「大学図書館内協同学習スペースにおける3、4年生の授業外学習の実態及び学習支援のニーズ調査 東北学院大学アクティブ・コートの事例」大学教育学会2016年度課題研究集会要旨集,pp.68-69
- 鈴木夕佳・岡部晋典・浜島幸司 (2016)「学習支援と学部教育はいかに連携できるのか：良心館ラーニング・コモンズでのセミナー実践をもとにして」『同志社大学学習支援・教育開発センター年報』第7号、pp.42-62.
- 呑海沙織, 溝上智恵子 (2012)「日本の大学図書館における学習支援の現状」大学図書館問題研究会誌, 第35号, pp7-18.